

東照宮へ、ロマネスク日光街道⑦2日目 古河宿～野木宿～間々田宿

日 時：2023年6月11日（日） 天候：小雨 歩数：27000歩 距離：17km

集 合：古河セントラルホテル 9時

コース：古河セントラルホテル→古河駅→古河宿高札場跡・本陣跡→永井路子旧宅→正定寺→永井寺→
渡良瀬川土手→田中正造翁遺徳之賛碑→雀神社→東杉並町通り→古河宿道標→横町柳通り→
はなももプラザ¹⁴→和菓子明石屋→正麟寺→手打ちそば松川屋（昼食）→塩滑地蔵→栃木県入り→
野木神社→野木宿入り口跡→野木宿跡→野木一里塚跡→野木宿道標→法音寺→小山市入り→
乙女一里塚跡→若宮八幡宮→乙女八幡宮→小山市立博物館→乙女不動原瓦窯跡→間々田駅

参加者：熊坂L 奥村SL 勅使河原 高橋文 奈良 渡辺 清水 市村 高橋友 9人

「東照宮へ、ロマネスク日光街道」⑦2日目は、熊坂リーダーから「古河城の城下町でもあった古河は見所も多いのでたっぷり散策したら、いよいよ栃木県に入り野木宿と間々田宿を歩きます」とのコース説明がありました。前日は14時44分に古河市入りして日光街道を北上。城下町を東から西の古河城本丸跡へ歩き、東の古河セントラルホテルまで歩きました。2日目はホテルから、前日より北側エリヤを東から西の渡良瀬川の土手まで歩き、城下町を東へ歩いて日光街道に戻って北上。13時15分に栃木県入りするまでの23時間ほど古河市滞在、見所いっぱいの古河城下町でした。そしていよいよ東照宮のある栃木県入りをしました。

2日目は、小雨が降ったり止んだりの梅雨空ウォーキングでした。旅に雨はつきもの、「いにしえの日光道中旅人も雨の中を歩いたのだろう」などと思いを馳せ、雨に映えるアジサイを愛でながらのウォーキングも楽しいものです。

2日間の総歩数5万6000歩、総距離35.5km。いにしえの旅人は、朝早く出立して1日に10里（約40km）を歩いたと言います。いにしえの人には及びませんが、快調なピッチの街道歩きで充実感いっぱいでした。



古河宿道標

古河セントラルホテル 9時～古河駅～古河宿高札場跡・本陣跡～永井路子旧宅

ホテルの朝食は1階食堂で、ハムエッグとマカロニサラダ、キュウリの酢のもの、納豆、海苔に具たくさんの味噌汁とご飯で美味しくいただきました。気象情報とおり小雨、みなさん雨対策をしてホテル前に集まり9時にスタート。古河駅1階連絡通路を通り西口へ、本町地域に入り古河宿の高札場跡、道を挟んで本陣跡を見学。石造りと赤レンガが調和した建物の前へ出ました。酒類卸売業を営んできた平野家の耐火石倉として大谷石を用いて大正9年に建てられ、現在は篆刻（てんこく）美術館となっています。その先の直木賞作家永井路子旧宅へ、蔵造り建物の中に住居の一部が再現されていて遺品の机や本棚が展示されていました。



正定寺～永井寺～渡良瀬川土手～田中正造翁遺徳之賛碑～雀神社の大樫

家康、秀忠、家光の徳川3代に仕え大老として徳川幕府の基礎を築いた古河城主土井利勝が創建した正定寺へ、大きな鐘楼が目飛び込んできました。正定寺を出て西へ、この辺りの地名は城下町らしい大手町。初代古河藩主永井直勝が創建した永井家菩提寺永井(えいせい)寺へ、木々が生い茂り小雨に煙っています。さらに西へ進み、昨日より上流の渡良瀬川土手へ。河川敷にはゴルフ場が広がり、古河駅方面には高層マンションが1棟そびえています。足尾銅山鉱毒事件の被害者でもあり救済を政府に訴えた田中正造の「田中正造翁遺徳之賛碑」がありました。土手を下りて東へ進み雀神社へ、幹周囲8.8mの大樫が立っています。



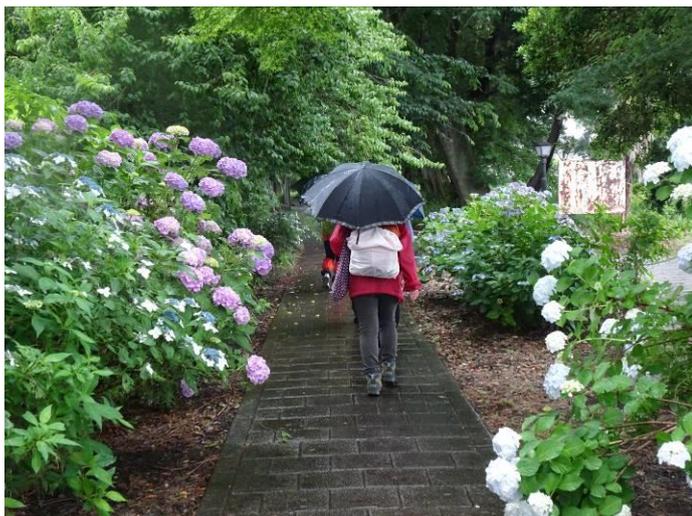
東杉並町通り～古河宿道標～横町柳通り～はなももプラザ～和菓子明石屋

赤レンガを敷いた東杉並町通りを東へ、白壁塀が武家屋敷の面影を残しています。ヤマボウシが咲く民家の庭など趣のある道です。ぐるっと古河城下町を歩き、朝見た本陣跡北の日光街道へ出て古河宿道標が立っているところへ。突き当りを左に行くと日光街道、右は筑波道、集合写真を撮って左へ。日光街道の横町柳通りへ入り北上。間口の広い建物は江戸末期の「湊屋」茶屋で今は鰻の武蔵屋、国登録有形文化財です。はなももプラザへ入り、うたごえレッスン中の部屋に展示されている古河屋台を見学。プラザを出て、和菓子の明石屋へ入り、みなさんお土産を購入。私はわらび餅と「渡良瀬八犬伝」という菓子をお土産にしました。



正麟寺～手打ちそば松川屋～塩滑地蔵～13時15分 栃木県入り～野木神社

女将さんが「今日は雨でお客さんが少ないの、ありがとう」と「渡良瀬八犬伝」を1枚ずつおまけしてくれました。店を出て10分ほど歩き、前日、生誕の地を見た古賀藩家老鷹見泉石の墓がある正麟寺へ、境内にザクロの花が咲いていました。小雨が降ったり止んだり、12時を過ぎました。リーダーの提案で手打ちそばの松川屋へ入店。私はもりそば大で腹ごしらえ、すっかり落ち着き13時5分に午後のスタート。近くの塩滑(しおなめ)地蔵へ、身体の悪い箇所と同じところに塩をすり込むとご利益があると伝わっています。地蔵を出て推定13時15分に栃木県入りして野木町へ。アジサイが雨に映える野木神社へ到着しました。



野木神社～野木宿入り口跡～野木宿跡～野木一里塚跡～野木宿道標

野木神社は、延暦21年に征夷大將軍坂上田村麻呂が蝦夷征討の戦勝祈願行い、その成功の礼としてこの地に社殿を新築しました。境内には栃木名木百選のイチヨウなどがあり、フクロウが住んでいて5月に雛が孵ったとのことで探しに行ったのですが・・・ 拝殿前には親子のフクロウ像がありました。日光街道へ出て木戸があったという野木宿入り口跡、少し進んで野木宿跡へ。立て看板には「野木村の成立は野木神社の周りに住居したのが始まり・・・江戸時代の野木宿は古河宿と間々田宿の間の宿場町」と書かれています。野木一里塚跡を通り栃木へ向かう脇往還入口にある野木宿道標へ、「是より大平山道」と刻まれています。



法音寺～小山市入り～日本橋から 18 番目の乙女一里塚跡～若宮八幡宮

道標から20分ほど歩き、「小山市中心街へ1.2km」の標識。続いて「右方向野木駅」の標識が出てきました。野木神社を出て1時間近く歩きました。コンビニで暑さしのぎと水分補給、トイレ休憩です。さらに20分ほど歩き法音寺へ、芭蕉の「道ばたのむくげは馬に喰われけり」の句碑が建立されていました。時刻は15時、ホテルを出て6時間。小雨降る中を快調なピッチで歩いてきました。暑さで少し疲れも出てきたようで涼をとって小休憩です。法音寺を出てすぐに小山市入りです。日本橋から18番目の乙女一里塚跡を見て若宮八幡宮前を通ります。ずっと平坦な道を歩いてきた日光街道、ここはゆるやかな上り道です。



乙女八幡宮～小山市立博物館～乙女不動原瓦窯跡～16時30分 間々田駅

鎌倉時代に創建されたと伝えられる乙女八幡宮へ、長い参道を進み本殿へ。横に青いシートにかぶされた土俵があります。例祭にはかつては江戸の本相撲が勧進されましたが、現在は子ども相撲が行われています。参道横から出て小山市立博物館へ、「小山評定とその時代の軍装」展の開催最終日で入館は無料扱い。常設展では、「小山市の南の広大な渡良瀬遊水地からはハマグリやカキが見つかり、かつて海だった」など小山市の歴史などを知ることができました。博物館横の乙女不動原瓦窯跡を見学して16時30分、間々田駅に着きました。行動時間7時間30分、歩数2万7000歩、距離17kmでした。各自クールダウンをして16時47分発の小田原行きに乗車、栃木県から、茨城、埼玉、東京を經由して横浜まで約2時間の長旅です。



(いちむら記)